

○議長（中西峰雄君）引き続き、順番4、22番 楠本知子君。

〔22番（楠本知子君）登壇〕

○22番（楠本知子君）ただ今、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問をさせていただきます。

1番目は子宮頸がん予防ワクチンの接種の助成について。

子宮頸がん予防ワクチンの接種の費用は全額自己負担が原則ですが、経済的負担を軽減するため、公費助成に取り組んでいる自治体が広がっています。今年3月、厚生労働省が都道府県を通じて、1,744市区町村から定期や任意の含む予防接種への公費助成の状況について回答を得ました。その集計結果によりますと、この子宮頸がんにおきましては114の自治体、6.5%が公費助成を行い、78自治体が68.4%、1万2,000円以上の助成を行っています。

子宮頸がんは性交渉によるヒトパピローマウイルス感染が主な原因とされ、10代前半のワクチン接種で予防が期待されます。約1万5,000人の女性が、特に若い女性が発症し、年間約3,500の方が亡くなっておられるということで、助かっても子宮摘出で子どもが産めなくなる、身体的・精神的負担が大きいです。

公明党のほうでは、国へ7月に、子宮頸がんの予防接種を全額国費で補助をすることを柱にした「子宮頸がん予防法案」を提出しております。厚生労働省の2011年度の新規事業として、子宮頸がんワクチンの公費助成に150億円が計上されると報道されました。3月議会でこの予防接種の助成をお願いさせていた

だきましたが、橋本市単独では実施は困難であり、国への予算措置を要望していくなど対応を検討していく必要がある、とのことでした。来年度の予算編成には注視をしていかなければなりません、橋本市として積極的に取り組んでいただきたくお伺いをいたします。

2番目に、救急医療情報キットの導入についてお伺いいたします。

明治学院大学の社会学部教授の岡本多喜子先生が、アメリカのポートランド市で行われた実践例をヒントに東京都港区で提案されたのが始まりです。救急医療情報キットはNPO法人のメンタルケア協議会が出しているもので、オレンジポットと言います。この中には、救急受診のための情報として、氏名、血液型、生年月日、家族構成、緊急時の連絡先などの個人情報、かかりつけ医、病歴などの医療情報、本人の写真、健康保険証のコピー、診察券のコピーなどを入れておきます。災害時はもちろん、平時においても緊急の事態が発生したときにも役立ちます。

東京都港区が初の事業として平成20年5月にスタートされ、このキットを高齢者、障がい者、健康に不安のある方に無料で配布しておられます。キットの保管場所は探しやすいように冷蔵庫に統一し、キットが冷蔵庫にあることがわかるように、玄関のドアと冷蔵庫にステッカーを張ることにしています。救急車が駆けつけた場合にも、冷蔵庫にキットがあれば情報を確実に得ることができます。

この取り組みが全国で広がっております。昨年9月に、命のカプセルということで提案させていただきました。その後、地域包括ケア会議の中で取り組みを進められていただい

ていると思いますが、この導入についてお伺いをいたします。

3番目に、児童デイサービス事業所（たんぽぽ園、つくしんぼ園）の施設整備についてお伺いいたします。

1月に上久保議員とともに保育所と幼稚園を訪問させていただきまして、たんぽぽ園とつくしんぼ園にも訪問させていただき、調査と意見交換をさせていただきました。たんぽぽ園には、そのときは22名の子どもさんが通われており、つくしんぼ園には、橋本市から12名、かつらぎ町から9名、九度山から1名、高野山から1名と計23名が通われておられました。たんぽぽ園では施設が手狭で、相談する部屋がない。つくしんぼ園では集会所と共用している、給食室がとて狭い、部屋が冬は暖房がきかず大変寒く、夏は暑い等お声をいただきました。橋本市では県下に先駆けまして発達相談事業を積極的に進められておられるところですが、平成22年を目標にたんぽぽ園へ療育対象児を受け入れられるという計画について、どう進められていくのかお伺いをいたします。

次に4番目、高野口斎場の利用についてお伺いいたします。

平成10年度に完成した高野口斎場の火葬炉2基に、新たに4基の火葬炉を増設、設計監理委託料が6月補正予算で計上されました。合併後の新市まちづくり計画の理念に沿って平成24年3月から6月を目標に高野口斎場への一本化が進められていかれるかと思いますが、高野口斎場の位置付け、地元周辺地域への配慮、改築内容等、どのような手法で市民の方に情報公開をして理解と協力を得ていかれるのかお伺いいたします。

以上、よろしくお願ひいたします。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）楠本議員の高野口斎場の利用についてお答えをいたします。

新市まちづくり計画では、既存施設の利活用等により効率的かつ効果的な運営に努めるため、公共施設の統合整備を検討することとなっております。現在、本市におきましては橋本斎場・高野口斎場の2箇所があり、本市の人口規模から勘案しますと、新市まちづくり計画の理念に沿って1箇所に統合する必要があります。このことは合併の意義というものでございます。

橋本斎場につきましては、平成元年に竣工しており、設備等もかなり老朽化しております。また、地元区との覚書により、設置期限が3カ年延長の末、平成24年6月末となっております。また、新たな場所での新設となりますと、建設費用のほかに場所の選定から用地費・進入路の確保等、膨大な費用と時間が必要となってきます。

一方、高野口斎場につきましては、平成10年からの稼働であり、比較的良好な状態であります。このことから、高野口斎場東側に3炉分を増設し、現高野口斎場の予備スペースに1炉を設置し、合計6炉とする実施設計をしているところであります。また、地元区につきましては、増設についての同意は得られたところであり、今後、地域関係者と協議を進めてまいりたいと考えております。

なお、市民の方々への情報公開につきましては、公表可能なものについては公開してまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひを申し上げます。

なお、残余の件については担当参与よりお答えをいたします。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（上田敬二君）登壇〕

○健康福祉部長（上田敬二君）最初に、子宮頸がん予防ワクチン接種の助成についてのご質問にお答えいたします。

子宮頸がんは、10代前半にワクチンを接種することで予防効果が期待できるとして、日本では昨年10月に初めて予防ワクチンが承認され、12月に販売が開始されました。

子宮頸がんワクチンを助成する場合を試算してみると、ワクチン費用が1回1万7,000円前後で計3回の接種が必要となるため、1人当たり約5万円の金額になります。来年度新しく入学する中学1年生女子は341人なので、全額公費負担で接種率100%としますと、約1,705万円となります。

市の厳しい財政を考えると、市において単独での公費助成の実施は難しいことから、市から子宮頸がんワクチン予防接種の財源措置を求める要望を行い、県下8市で組織します予防衛生協議会の総意をもって県へ要望書を提出しました。

厚生労働省においては、政党や医療関係団体、行政機関等の要望を受けて、子宮頸がん予防に国として取り組む方針を打ち出し、子宮頸がんの予防ワクチンを公費助成するとして、来年度予算の概算要求に盛り込んでおります。計画では中学1年生から高校1年生の女子を接種対象とし、市町村に費用の3分の1を補助するというものです。

市においても、疾病予防は重要な施策であることは十分認識しております。厚生労働省が子宮頸がん予防ワクチンの安全性を認めた上で、財源措置が確保されれば、公費助成等の方法について具体的に検討してまいりたいと考えております。

続いて、救急医療情報キットの導入についてお答えいたします。

平成21年9月議会において、楠本議員より、救急医療情報「命のカプセル」のご提案をい

ただきました。

同時期、地域包括支援センターが主催しております地域ケア会議において、「高齢者の地域での見守り」をテーマに、課題や対策についてさまざまな話し合いが進められていたことから、この会議の中で救急医療情報や情報の中身についての検討を行いました。

会議参加者である民生・児童委員や介護保険サービス事業者、ケアマネージャーの方々と、救急医療情報には何が必要か等々について検討し、市消防署救急係からも、実際に必要な情報の中身について有意義なアドバイスをいただきながら、このたび市独自の救急医療情報票を作成いたしました。

そして、現在、試験的に地域包括支援センター職員やケアマネージャーが、ひとり暮らしの方や高齢世帯などを訪問した際、必要と思われる方々に救急医療情報の記入を勧めており、あわせて記入方法についてもお手伝いをするので、冷蔵庫の前に張って利用いただいております。

しかし、高齢者には救急医療情報票の内容について記入できない人もいるのではないかとのご意見もあり、配布対象や配布方法・記入方法などを含めて再整理した上で、本格実施していきたいと考えております。

いずれにいたしましても、救急医療情報をあらかじめ備えておくことは日常生活の安心につながり、これからの高齢化社会を支える有効なツールとして、親しみやすい愛称をつけ、高齢者に周知・普及を図ってまいりたいと考えております。ご理解をお願いします。

続いて、児童デイサービス事業所の施設整備についてお答えいたします。

現在、橋本市には児童デイサービスの施設として、たんぼぼ園とつくしんぼ園の二つがございます。たんぼぼ園は公立で、つくしんぼ園は社会福祉法人桃郷が運営しております。

たんぼぼ園は旧橋本市が旧柱本小学校プール跡に建設し、平成7年4月に開園、毎年約20名の園児が在園しております。一方、つくしんぼ園は旧高野口町、かつらぎ町、九度山町、高野町、花園村の有志の運営委員さんで平成8年1月に15名の定員で開始したもので、伏原の教育集会所を使用しております。平成19年4月からは、社会福祉法人桃郷がつくしんぼ園を引き受けてくれることになり、現在に至っております。

現在、つくしんぼ園では23名の園児を受け入れておりますが、伏原の教育集会所は手狭であり、給食をつくるスペースも十分ではございません。また、年々療育を希望される園児の数が増加していることから、社会福祉法人桃郷ではより大きな施設で、かつ安定して運営できる場所を探しており、本市でも利用できる土地、施設を探しているところですが、まだ適当な場所が見つかっておりません。

園児数の半分が本市の児童であり、伊都地方の貴重な療育の場でもありますので、今後も市として協力をしてまいりたいと考えております。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君、再質問ありますか。

22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）ありがとうございました。そしたら少し、1番から順番にお伺いさせていただきます。

子宮頸がんのワクチンにつきましては、国の予算として来年度の予算も見込まれているということです。橋本市もそれに沿った形で、全額助成という形になるのかどうか分かりませんが、前向きに検討していただけるとのことですので、どうかよろしくお願いいたします。

とにかく、今やっこの予防接種が始まっ

て、よく言われるんですけども、特に女の子のいるご家庭のお母さんは、この予防接種をさせてあげたいんですけど金額が高いのでねということ言われます。ぜひとも、だからこの助成に対して積極的に導入をしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、2番目の緊急医療情報キットというのについてなんですが、ちょっと皆さんにわかりやすいように、このNPO法人のメンタルケア協議会がつくっているキットを紹介させていただきます。

これが、こういう筒のキットなんです。ここにいろんな情報を入れておきます。これはオレンジポットと書かれているんですけども、これは玄関に張っておくそうです。これが、裏が冷蔵庫にくっつくようになっていきます。マグネットになっています。これとキットと4点セットになっているんですけども、これは私がこのNPO法人に直接購入したんですけど、これは全部で270円でした。これと同じようなものを、これを使わなくても、十分橋本市でもこういう形のものをつくれないかなというふうに思います。

今、地域包括ケア会議の中で、こういう中に入れるキットをまず今つくっていただいていると思うので、すごいいいキットをつくっていただいていると思うので、それをこの中に入れていただいて、ある場所は、きちっと冷蔵庫にあるということが、確実にどこにあるかということがすごい大事なことでないかなというふうに思うんです。冷蔵庫の前に張っておくのもいいかとは思いますが、冷蔵庫の前というのは、主婦はいろいろと張っているんです。いろんなごみ出しのカメラ、いろいろ張っています。そんな中でそれも張るという形になるかと思うんですけども、貴重な情報ですので、それをこうい

う形できちっと冷蔵庫の中に入れていただいて、そして、その家庭が表の玄関でどの家庭かということがきちっとわかるというのは、すごく平時においても、また緊急時においても貴重な情報ではないかと思うので、さらに前向きに検討していただいて、進めていただけたらなというふうに思います。

地域包括ケア会議でつくられているキットをちょっと見せていただいたんですけれど、それは冷蔵庫に張られるという前提でつくられていると思うので、常に見ないといけない情報と、個人情報とが表裏で一緒に入ってるんです。その点について、今後また検討していただけるとかいうのはあるんでしょうか。常に目の届くところに見ておかないといけない情報と、個人情報が1枚の紙の中に二つ入ってますので、もし、こういうふうな形で導入していくんやったら、二つはちょっと相反する情報があるのかなというふうに思うんですけれども、その辺いかがでしょうか。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）楠本議員、サンプルで容器を見せていただきましたけれども、本市が考えておりますのは、容器に入れて冷蔵庫の中へ入れるのではなくて、冷蔵庫の扉へ張りつけることを考えております。開けなくてもいいと。ただ、個人情報と救急時の消防署とか警察署の連絡先、いろいろそれも普段張りつけておられる家庭も既にあるんですけれども、個人情報については、家の中に入ってきた方だれでもがずっと目に飛び込むということについては、一定の配慮が必要なんかなと思っております。

したがいまして、これは見本なんですけれども、表面については、火事・救急は119番、事故・事件は110番とか、包括支援センターの電話番号、あるいは夜間救急の市役所の連絡先等、表面にはこういう、だれが見ていただ

いても結構な連絡先を記入しております。これを1枚ぱらっとめくっていただいたら、ここに本来の個人の情報、家族の状況ですとか、地域支援者、入っておられるんですしたら民生委員の名前、あるいはケアマネージャーの名前、それとかかりつけ医のお医者さんの情報関係、それと治療を現在受けておられる方については、人工透析されてるのか、在宅酸素を利用しておられるのか、ペースメーカーを入れられているのか、インスリン注射をやられているのか、こういう情報を詳しく記入することになっております。これらは基本的に、ちょっと他人には見られたくない情報ですので、ワンクッションめくる作業が要りますけれども、意図的にプライバシーへの配慮をした記入票となっております。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）よくわかるんですけど、要するに、冷蔵庫の表にはいろんなものがいっぱい張ってあるんです。だから、そういうところに直に張ると、紙が傷んでくるんです。紙だから。ずっと張ってますでしょう。だから、そうじゃなくて、そういう大切な情報やから、大切なところにしまっておきましょうというのがオレンジポットなんです。だから、常に見れる、そんな冷蔵庫に張ってたら1年ももちませんよ。ぼろぼろになってきます。

だから、例えばその情報にしても、袋をかぶせるとか、袋にするとかにしないと、そのキットだけを冷蔵庫に張ってたら、多分、絶対どこかになくしますね。そこをここまできちっとされてるから、この情報の意味があると思うんです。それで、こういう形で緊急時にも役立つ情報ですので、こういう形にまできちっと大切に保管されると、情報は少しずつ変わるかもわかりませんが、ある程度きちっとした情報として確保されるんじゃないかなというふうに思うんですけど、こ

ういう緊急時においては、救急車も出動されるということかと思うんですけども、消防長、突然で申しわけないですけど、どうのご感想をお持ちかお願いできますか。

○議長（中西峰雄君）消防長。

○消防長（神谷重廣君）このキットですけども、確かにあったらありがたいということで、うちのほうでも一回、今までの過去の事例を調べました。今のところそういう、これが必要やったという事案はありませんけれども、住民の安心・安全のことを考えれば必要かなと思うんです。ただ、県下でもこういうキットを設置してある場所を調べたんですけども、和歌山市消防局や、お隣の那賀の消防本部では、こういうキットではなしに、今、健康福祉部長が言われたようなカードを冷蔵庫のところに張ると。救急安心カードというのを設置しております。ですから、今はあったらいいんですけども、まずは個人情報のこともあるんですけども、先ほど言われたとおり折り返して、どこともそういうような形になっておりますので、それでいいのではないかなと私も考えております。

以上です。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）今、手元に紙見本で先ほど説明させていただきましたけれども、6カ月で破れたり、下へ落ちこちるといような、そういう貧弱なものを想定しておりません。もっと立派なものをつくっていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）失礼しました。冷蔵庫に張っても貴重な情報になると思いますけど、こういう形でやったら確実にいい情報になるかなというふうなことで提案させていただいています。別に、ラミネートしたような

形で冷蔵庫に張れば、十分長もちするとは思いますが、特に高齢者やこれから増えていく老老世帯であるとか、そういう方にとりましては貴重な情報になるかと思しますので、前向きに進めていただけたらと思います。よろしく願いしておきます。

次に、たんぼぼ園とつくしんぼ園の施設整備についてということでお伺いさせていただきました。私がこういう質問をさせていただきましたのは、ちょっと本当に勉強不足で、こういう書き方になってしまって申しわけないと思ってるんですけども、要は、今、社会福祉法人になっております、このつくしんぼ園のほうへ療育児童がだんだんと増えてきている昨今の中、こちらの法人のほうへ児童をお願いをするという形をとっていくという、市はそういう形でやっていくということでしょうか。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）先ほど答弁させていただきましたように、たんぼぼ園とつくしんぼ園、運営主体については民間と公立直営の二つの方法がありますけれども、二つは基本的に現時点では残していくつもりであります。ただ、つくしんぼ園については、合併時、橋本市のたんぼぼ園に合併したいというようなことも検討させていただきましたけれども、九度山町、かつらぎ町、あるいは高野町、花園村の児童の方もいらっしゃいますので、受け皿がないと。少人数ではやっていけないというようなことがありまして、社会福祉法人のほうで一括して運営していただくと。そちらのほうを一応選択させていただいておりますので、現状の状態が続けていきたいと思っております。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）そしたら、つくしんぼ園は要は民設民営ですので、民設民営の法人

が積極的に施設整備へも取り組んでいきなさいということが筋やと思うんですけども、今、行かれています子どもさんの数も、橋本市では、そこへ行かれています数はそのときは6人ぐらいでしたけど、また増えていくにしても、10人ぐらいの方です。また先生におかれましても、毎日毎日子どもたちと無事にきょう一日過ごして、本当に無事に帰らせてあげたいという、その思いだけでもう精一杯で、この施設をもっといいところにしていきたいというような気持ちはあっても、これ以上何も、これ以上行動できないというか、そういうような感じを受けました。

橋本市においては、本当に少ない人数ですので、集会所と共用の施設でありますけれども、ずっとそういう形で続いていて、なかなかそういう声が届かないというか、小さな声ですのでなかなか届かないのかなというふうにも思いますけれども、ぜひともこの幼保一元化を進める中で、いろんな保育所、幼稚園が空き幼稚園、空き保育所になってきておりますので、その辺を何とか利用していただくというふうな話を、前へ進めていっていただけないのかなというふうにも思うんですけど、その辺はどうでしょうか。進めていただいているのかなというふうにも思うんですけど。

○議長（中西峰雄君）副市長。

○副市長（清原雅代君）ただ今、楠本議員からのお話なんですけれども、実は法人のほうから何回か市役所のほうへも見えてくださりまして、担当課も市長も、それから私のほうともお話を聞かせていただいたりとかは、以前よりしております。

そういった中で、法人の希望といたしましては、何とか土地だけでもご協力いただいて、あとの施設については国や県の補助金がございますので、自分のところで建てていきたいというようなご意向もございます。

ただ、橋本市といたしましては、今回、高野口のこども園を建設いたしました後、保育園の空き教室というか、空き園もございますので、そういったところも実際現地へ行っていただいて見ていただいたり、あと、「むくのき」が入っております高野口の高野口公園の下、ありますよね。その施設へも実際職員と一緒に、ここだったらどうですかとかいうようなことでご紹介もさせていただいたりしてるんですけども、なかなか法人さんの希望する広さとか、できればそういった施設も活用していただけたらと思ひまして、見ていただいているんですけども、今のところ合致するような適当な場所というのが見つかっておりません。

あと、教育集会所を今現在使っておられまして、その隣に空き地があるんですけども、当初、そこを法人さんとしたら、できたら使わせていただきたいというようなご意向もあったんですけども、まだ地元とのそういった調整もできておりませんし、地元のほうでいろいろ考えておられることもあるようですので、その辺、いろんなところを見ていただいたり、提案はさせていただいてるんですけども、なかなかいいところが見つからないというのが現状でございます。

ただ、橋本市といたしましては、今のところの場所が必ずしもいいとは思っておりませんので、やはり市内に住む子どもたちが通っている園ですので、何とかいい場所を見つけていきたいというふうには考えております。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）ありがとうございます。どうか一刻も早く移動できるように、よろしくお願いをしたいと思います。

次に移らせていただきます。高野口斎場についてですが、この高野口斎場につきましては、平成19年の9月に先輩議員が尋ねておら

れます。そのときの答弁の中では、赤塚斎場につきましては、続けて使用していただけるように要望しておりますというふうな答弁でして、今回の6月の補正予算で高野口斎場に4基の増設がされるにあたりまして、このまちづくり計画に基づきまして、二つにある施設は一つにしていこうではないかということの理念に基づいてということをお聞きをしております。

この斎場というのは、本当にどこかでだれかが受け入れをしなくてはならない施設ですし、だれもお世話になる施設ですので、理解しているんですけども、赤塚斎場におきましては使用年数が限られております。使用年数が限られていて、使用年数が切れて、期限が切れてきている斎場と、二つを一つにしていくまちづくりの理念と、少し違うように思うんですけども、その辺について、もう少しご説明いただけますか。

○議長（中西峰雄君）市民部長。

○市民部長（井浦健之君）赤塚の斎場ですけども、これにつきましては、以前の総務委員会の中でもご説明もさせていただいているわけですけども、平成元年の建設当時に、20年の撤去期限ということで地元と覚書を交わしておるわけでございます。そんな中で、地元のほうから撤去期限を守ってほしいといった話もあったわけですけども、そんな中で地元といろいろとお願いやら協力をお願いする中で、3年の延長を認めていただいたというのが経過でございますけども、ただ、合併まであれば旧の高野口町に高野口斎場、そして旧の橋本市に橋本斎場ということで一つ一つあったわけですけども、それと合併という一つの大きな転機があった中で、その二つの斎場を一つにまとめていきたいということと、そしてまた地元との撤去期限の覚書の条件がたまたま一緒になったといったことで現在進

めさせていただいているということで、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）高野口におきましては、高野口のごみの施設もありますので、斎場も高野口に来るのかというふうなお声を聞くわけなんです。そのお声に対してはどういうふうに、今でも聞こえてきているかと思いますが、そういうお声をどのようにとらえられて、またどのようにお答えしようとしていかれるのか、その辺についてお伺いしたいと思います。

○議長（中西峰雄君）市民部長。

○市民部長（井浦健之君）確かに今、楠本議員がおただしのように、高野口に広域のごみの処理場、そしてまた斎場ということで、そういった声は確かに我々のほうにも伝わってきております。

ただ、我々といたしましては、高野口に迷惑施設ばかりが行ってるのではなくて、いわゆる旧の橋本市の中にも、例えば、学文路地区におきましてはプラント施設、そして彦谷には最終処分場といった形で、それぞれの地域の中でお願いをして、させていただいているという状況でございますので、旧の高野口町ばかりにそういった迷惑施設を持っていくといった考えではないということでございます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）もうちょっとお伺いさせていただきたいんですけど、高野口斎場は、今、平成10年に完成ですので、斎場というものの耐用年数というのがあると思うんですけども、その耐用年数を考えて、赤塚斎場のように使用期限を切られているのか、それとも使用期限なしで半永久的にこちらになるのか、そういうことはどういうふうになっているのか教えてください。

○議長（中西峰雄君）市民部長。

○市民部長（井浦健之君）まず火葬場の耐用年数ですけれども、これについてちょっと若干ご説明させていただきたいと思います。

火葬場の耐用年数につきましては、減価償却資産の耐用年数等に関する省令といった、昭和40年3月31日、大蔵省令第15号で出ておるわけですけれども、この中で火葬設備の耐用年数は16年、建物その他については38年と設定をされておるところでございます。

そういったことの中で、高野口斎場につきましては、平成元年に地元のご了解をいただきまして建設したわけですけれども、楠本議員がおただしの、いわゆる撤去期限があるのかということにつきましては、撤去期限はございません。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）22番 楠本君。

○22番（楠本知子君）ありがとうございます。

また、市民の方は、まだまだ橋本斎場が一本化されるということを知らない方もたくさんおられますので、この情報をきちっと市民の皆さまに公開をしていただきたいと思いますし、また総務委員会のほうへも付託をされると思います。議論をしていただいで進めていただきたいと思います。決して反対とかいうんじゃなくて、スムーズに斎場が一本化されるようにしていただけたらと思いますので、どうかよろしくお願いします。

以上で終わります。ありがとうございます。

○議長（中西峰雄君）これをもって22番 楠本君の一般質問は終わりました。

この際、2時15分まで休憩いたします。

（午後2時00分 休憩）